

そして、ほかの だれの ものでも ない。 —J.

見つけても、かみなり前に開けちゃだめだよ。

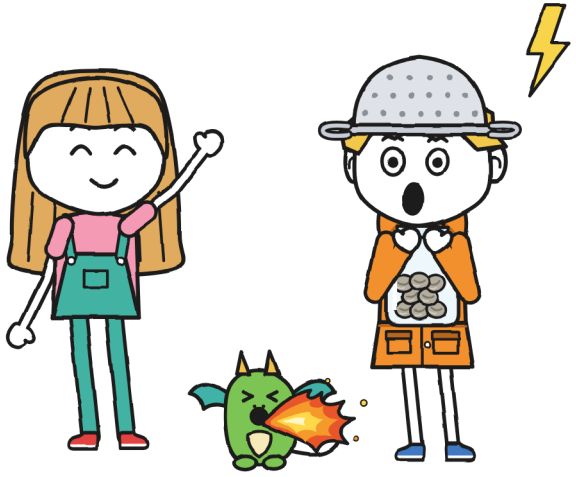
おはなしの なかだけ

このはんこは、お話の中だけのことをしめす：きみはやらないで。何ページもつづくときは、「ここから」と「ここまで」が書いてある。本当のあらしのときは、最後のページを見て。 —J.

ありえない はいたつ・2

かみなり まえに あけるな

Lui Eriksson



サイズ XL・イラスト小説・13+

ありえない はいたつ・2
かみなり まえに あけるな

シリーズの 2さつめ。1さつめは「このにもつは かみつく」。

文と絵：Lui Eriksson

日本語版：LinguAula

サイズ XL・イラスト小説・13+

初版：2026

© 2026 Lui Eriksson・info@linguaula.com

自由にコピーして、学校でも家でも使えます。

フォント：Zen Maru Gothic、Yomogi、Zen Kurenaido、Andika、Patrick Hand、Caveat、Courier Prime（SIL OFLライセンス）。

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう

この本を書いているあいだに、けがをしたかみなりは一つもいない。 —J.



第 1 章

あらしの ハンター

むかいの店に、ふるえている荷物がある。

先週の土曜日、荷物は一度だけ動いた。それからずっと、とまらない。細かくて、途切れないふるえ。動物病院の待合室にいる小さな犬みたいなふるえかただ。もう七日になる。日ごとに、少しずつひどくなっている。

そして、ぼくには新しいノートがある。

ノート1は使いきってしまった。「ありえない はいたつ」の店主のマラさんが、これをくれた：青い表紙で、すみに店の赤いはんこがおしてある。最初のページに、新しい言葉を一つ足して、タイトルを書いた：

グニのはいたつノート2。公式。

「公式」ってことは、わたしが先に読むってこと。公式に。 —J.

マラさんは、公式のノートに絵をかいてはいけないと言う。さあ、どうかな。このノートには、もう絵が一枚(まい)ある。

前のノートのことを、少しだけ。二週間前の土曜日の夜、フリータ（みどりのメモの人）とぼくは、おとなのつきそいなしで板の橋をわたって、何年もだれにもとどけられなかったたまごをとどけた。そのたまごが、今はパンくずだ。ぼくのまねを何でもするドラゴンの子。店の魔女(まじょ)のマラさんは、ぼくたちにばつを出した：毎週土曜日、十時に店に来ること。ぼくはこの町に来たばかりで、荷物のほとんどは、まだ箱の中だ。

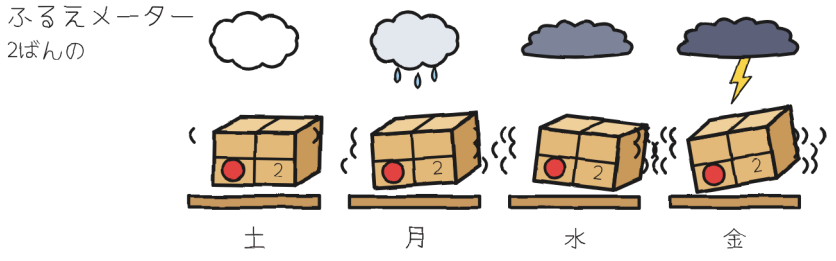
ふるえているのは、2番だ。「もどってきた荷物」の棚(たな)にあって、そのラベルを、ぼくは暗記している。今週は毎日の午後、立ったまま、さわらずに読んだ。マラさんは、ぼくが見えないふりをしていた：

- 2番。われもの。
- あてさき：フローラ、うんが通り9番地。
- ちゅうい：かみなり前にあけるな。
- さしだし人：R.

まわりには、「へんそう」のはんこが二十三こ。一つも落ちていないか、二回数えた。

「もどってきた荷物」とは、だれにもとどけられなかった荷物のことだ。うけとった人がきえないインクでサインをしないと、夜明けに、アヒルみたいに一列になって、とんで棚（たな）にもどってしまう。のこりは十九こ：かべに、みどりの字で、フリータの字で書いてある。そしてフリータがみどりで書いたものは、きえない。送っているのは、いつも同じ人、R.だ。わかっているのは、ものすごく字がきたない、ということだけ。

毎日の午後、どのくらいふるえたか、天気はどうだったかを書きとめた。そうして「2番のふるえメーター」ができた。金曜日、雲は稲光（いなびかり）を一つ、中にかかえていた。



こわくてふるえているんじゃない。あらしが来るからふるえているの。土曜日の午後六時に。天気予報は六回たしかめた。 —J.

メモを二回読んだ。二回目は、六時のところだけ。



土曜日の十時、マラさんはカウンターのうしろで、ぼくたちを待っていた。むらさき色の帽子、火花をちらして、ろうそくを消したあとのにおいがするはんこ。手には2番の荷物。棚ではなく、手の中に。はんこのとなりには、ゴムのカエルがまだいた。だれのものでもなくなったときから、ぼくのカエルだ。そしてイナズマ便の配達員のトニョが、ヘルメットをかぶったまま立っていた：土曜日は、トニョのばつの日でもある。トニョはばつも配達と同じように、時間どおりに、何もぬがずにすませる。

「二十三回、わたしが運んだ」とマラさんは言った。「でも、あらしの日は一度もなかった」

マラさんは、ラベルを親指でなぞった。ぼくはショーウィンドウを見た。空はだんだん灰色になっていく。今日の配達は、いつもとはちがう。

「これは」とマラさんは言い切った。「あなたたちがとどけるのよ。今日の午後に」

フリータはとび上がって、「のこり19」のふだにとどきそうになり、着地したときにはもうしゃべっていた。ぼくはとばなかった。ぼくの中には、二つの言葉、「今日の午後」と、一つの時間、六時が残って、荷物よりも重かった。



マラさんは三つのじょうけんを出して、指を折って数えた：

1. 五時に出る。あらしが来る前に。そして、すぎるまでフローラさんの家にいる。
2. 家族はもう知っているし、フローラさんも知っている。
3. きまりはラベルのとおり：かみなり前にはあけない。しかも頭の真上に来たかみなりでなければだめ。遠くのはノーカウント。

そのやり口には見おぼえがあった。パンくずのせわをしているベラさんにしかられたときのきまりと、ほとんど同じだ。ただし、あとからじゃなくて、先に言ってある。マラさんはその場にいなかったのに、ちゃんと知っていた：この町では、荷物より先に、おこごとがとどく。

「マラさんは行かないの？」とフリータが聞いた。

「わたしはここにやることがある」とマラさんは答えて、ショーウィンドウごしに、灰色（はいいろ）になっていく空を見た。

カウンターのはしに、たたんだもうふと、スキー用のみみあてと、小なべがあった。ぜんぶ見た。そして、荷物を見つめた。

そのとき、フリータがぼくを見た。

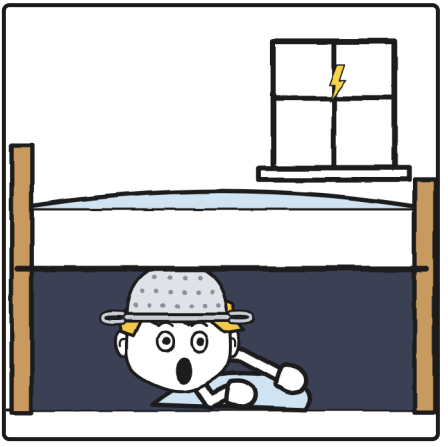
「グニは、あらしはすき？」

まっすぐぼくを見て、聞いた。本当のことを言ってもよかった。ぼくが言ったのは、これだ：

「だいすきだよ。前に住んでいた町では、プロのあらしのハンターだったんだ」

前のノートでは、うそが自分にもどってくるのに、一日と一晩（ひとばん）かかった。今回は近道をさせてあげることにした：その日の朝のうちに、うそをかいて、となりのコマに、本当のことをかいた。

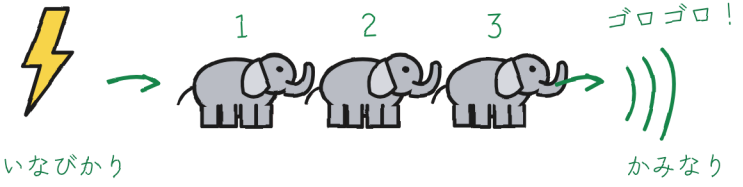




ざるは、台所のだった。ステンレスで、持ち手が二つ。かみなりは止められない。でも、頭の上に何かあると、ぼくは助かっ

た。今は引っ越しの箱のどれかに入っている。お母さんが一週間さがしているはさみのとなりに。

フリータは、ぼくのノートに、ことわりもなく、みどりのペンで、あらしの数え方を書いてくれた。



ぞう1とう、ぞう2とう、ぞう3とう……

ぞう1とう＝1びょう

ぞう3とう＝1キロ（だいたい）

ぞう0とう＝まうえ！

↖ これが ラベルの かみなり。
とおくの かみなりでは あかない。

ぞうが おおい ほど、その いなびかりは とおくに おちた。

かみなりが きこえたら、とおくても：なかへ！

数えるのは、稲光からかみなりまで、ぞうで：「ぞう1とう」でだいたい一秒、そして三とうで一キロ。そうすれば、その稲光がだいたいどのくらい遠くに落ちたかがわかる。次にどこ

に落ちるかは、わからない。数えてもわからないことがもう一つある、いつ外に出ていいか。それはフリータによると、また別のきまりで、絵はない：最後のかみなりから三十分。

小声でためしてみたら、はやすぎるぞうばかり出てきた。役に立たないやつだ。ぼくは何も数える必要がなかった、あらしはだいすきなんだから。でも、念のため、書きとめた。

トニョが、ぼくのかたごしにラベルを読んだ。自分のものじゃないものは、いつもそうやって読む。

「イナズマ便は、あらしの日にはとどけない」とトニョは言って、黄色いリュックの小さな字を見せた：イナズマ便・十分でとどかなければタダ。そして、フリータの虫めがねで見ると、星じるしがあった：*あらしのときはべつ。

「まだあらしじゃないでしょ」とフリータが言った。

トニョは、小さな字をもう一度たしかめた。「まだ」については、何も書いていなかった。

そういうわけで、トニョもついてきた。ぞうは一気に数える、「いちにさん！」と、まるで配達みたいに。トニョによると、あらしはぜんぶ一キロ先にある。勇気なのか、ぞうが足りないのか、ぼくにはわからない。

五時に、レインコートを取りに、通りをわたって家へ行った。フリータは入り口でぼくを待っていた。お母さんは、玄関でレインコートを手にぶらさげて待っていた。お母さんには、オレンジ色についての持論がある：遠くからでも目立つ、というやつだ。いったいどこから見るつもりなのか、ぼくは知らない。

「オレンジのを着ていきなさい」とお母さんは言った。「本当に行くの？ グニ、かみなりが鳴ると……」

「いってきまーす、お母さん！」

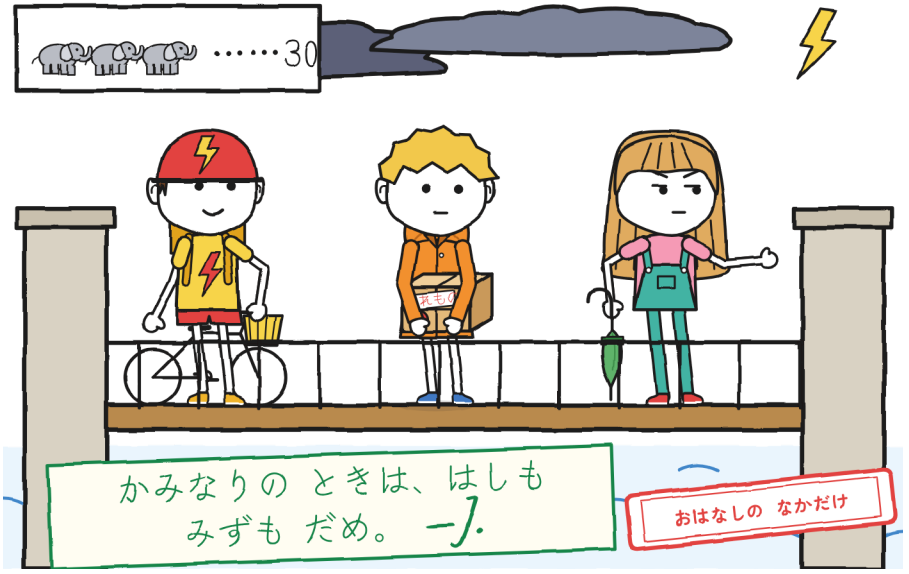
階段を二段ずつかけおりた。入り口のこだまで、お母さんの言葉の半分は、途中で消えるはずだと計算していた。消えなかった。フリータは、下にいた。

「かみなりが鳴ると……」って、なんなの？ —J.

空がどんどん黒くなっていくなか、ぼくたちは大橋をわたった。夜には船を通すために上げられる橋で、昼は、だれでもわたれる。この時間にわたっているのは、ぼくたちと、反対向きに急ぐおじさんだけ。あらしのときは、それが正しい向きだ。ぼくは2番を両手でかかえて、背すじをのばしていた。トニョ

は自転車をおして歩いた：道に迷っていないイナズマ便が、こんなにのろいのは、はじめて見た。

橋のまん中を通るとき、フリータは水に、かわいた短いあいさつをした。手をちょっと上げるだけで、わらいもせずに、きらいな相手にするように。板の橋の夜からずっとだ。それがきっとやくそくなのだと思う：フリータがあいさつして、水はフリータを通してくれる。



遠くで、空が光った。

雲のうしろのまばたき。音はなくて、自分のいない部屋の電気を、だれかがつけて、消したみたいだった。フリータはぴ

たっと立ち止まり、目をとじて、小声でぞうを数えた。何も聞こえないうちに、30とうまで数えた。ぼくもいっしょに、心の中で、はやすぎるぞうで数えたら、42とうになった。

ゴロゴロ。

「あの稲光（いなびかり）まで、十キロくらい」とフリータは見つもった。

「予報（よほう）だと、あらしは六時ごろ」

「かみなりが鳴った！」とトニョがさけんだ。「もうあけていい？」

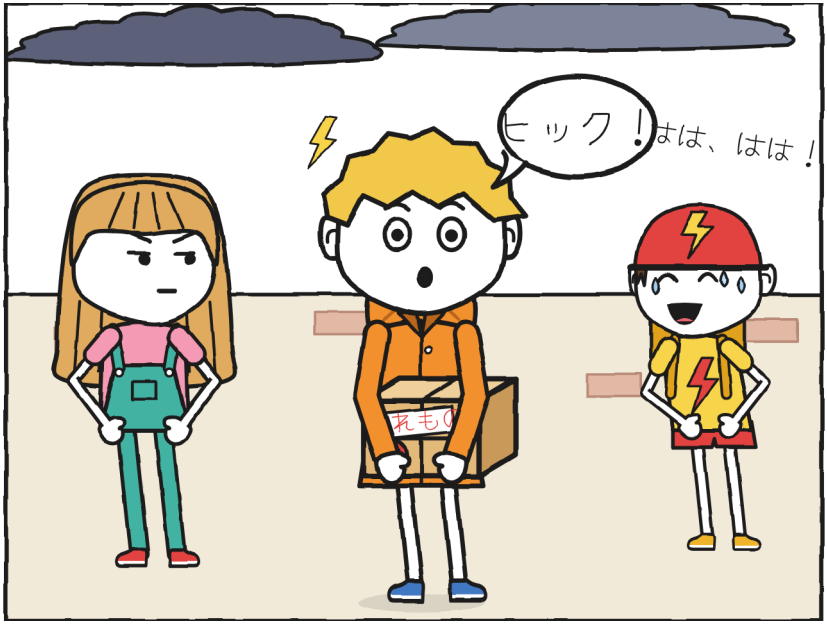
「荷物をあけるのに、あれは数えない」とフリータは、目をあけずに言った。「十キロ先だもの。ラベルのは真上のやつ：ぞう0とう。でももう聞こえてる：中にかくれよう！走って！」

ぼくは、何も聞こえなかったふりをして、うんが通りまで走った。ゴロゴロも、六時のことも。

「今の、ヒック？」とフリータは、足をゆるめずに聞いた。

「ちがう」とぼくは言った。「ヒック！」

トニョはハンドルの上で体を折って、自転車がかたむくほどわらった。フリータはわらわなかった。目をほそめた。書いていないことを読むときの顔で。



かみなりが鳴ると、ヒックが出る：小さいころからだ。あらしが遠いと、一回で終わる。真上だと、次のが来て、また次が来て、三秒ごとに、あらしが行ってしまうまでつづく。こわいんじゃない。体が、ぼくに相談もなしにやることだ。背がのびるのや、くしゃみと同じ。そして背がのびるのと同じで、どんな

顔をしてもとまらない。それは知っている。あらゆる顔でためしてみたから。

それをこわいって言うの。 —J.

うんが通りでは、赤い髪のベラさんが、ドラゴンの家の入り口で待っていた。フローラさんの家のとなりだ。パンくずをだいて。パンくずは、ぼくを見るなり、ぼくの顔をまねした：いつもそうだ。一秒ぼくを見て、ぼくがどんな顔をしているか確かめて、同じ顔をする。

2番をトニョの自転車のかごに入れて、両うでを広げた。

「はじめてのあらしなの」とベラさんは言って、パンくずをぼくのうでにのせた。「グニのまねを何でもするの。気もちまでね。おびえても、引っぱっちゃだめ：しがみつくから。すんだら、フローラさんの庭のへいを三回たたいて。すぐ迎えに来る」

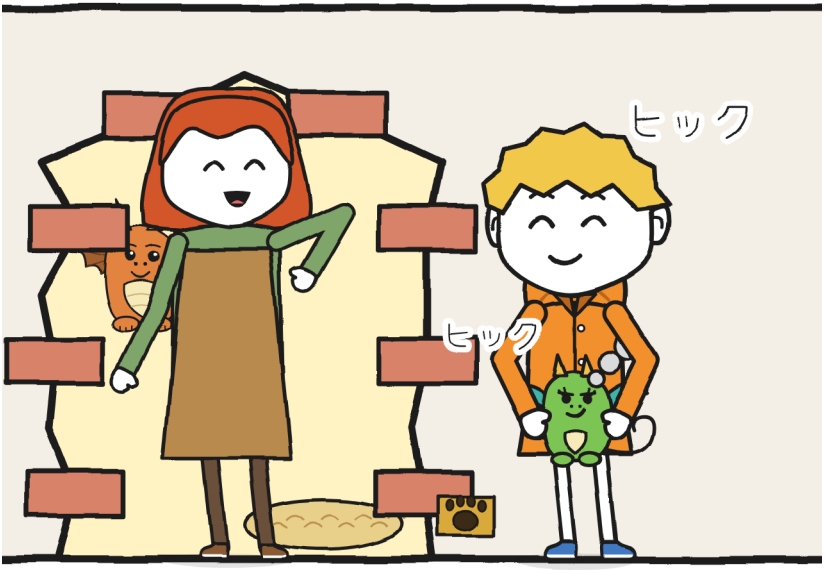
「ぼくは何も感じないよ」とぼくは答えた。「あらしはだいすきなんだ」

むねをはってそう言うと、うでの中のパンくずも、首をのばしてむねをはった：あらしがだいすきな人の見本が、大小二つ。ベラさんは、上下に重なった同じ顔の二つを見て、何も言

わなかった。ベラさんは、言葉を、必要になるときまでとっておく人だ。

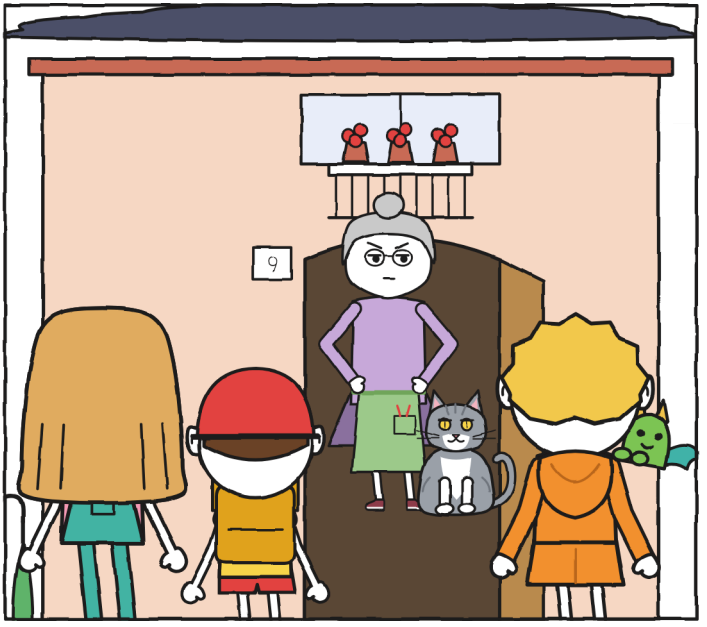
遠くで、かみなりが鳴った。ぼくはヒック。パンくずもヒックと言って、はなからけむりが出た。

「中に、早く」とベラさんはぴしゃりと言って、ぼくたちをフローラさんのドアのほうへ押(お)した。



フローラさんの家はゼラニウムの家だ。二週間前の土曜日、ベランダから、じょうろを宙(ちゅう)にうかべてぼくたちを見ていた女の人の、あの家。

ドアは、ノックする前にあいた。灰色(はいいろ)のおだんごにメガネの女の人。ポケットだらけの緑の庭師(にわし)のエプロンをして、足の間には、胸(むね)の白い灰色(はいいろ)のねこ。ぼくたちを、自分あてじゃない荷物を見るような目で見た。女の人は箱を見た。空を見た。パンくずを見た。この順番で、どれにも同じだけ、つまりほんの少しだけ、時間をかけた。



「ベラのところの子ね。わたしのシダをこがさないでおくれよ」と言った。「入りなさい、雨が来るよ。でも先に言っておくけど、わたしは石にはサインしないからね」

ひとつの おはなし、六つの サイズ

この本には六つのサイズがある。3さいから16さいまでで、ことばは20いじょう。XXS、XS、S、M、Lは同じ絵で、物語を一ページずつ語り、サイズが上がるごとに、細かいところまで話すようになる。XLは小説だ。同じ物語に、グニが心の中で考えても口には出さないことのための場所がある。

CEFRのレベルは目安です。XXS：pre-A1・XS：A1・S：A2・M：B1・L：B2・XL：B2–C1。

みんな自分のサイズで。おなじあらし。 —J.

おうちの ひとと せんせいへ

linguaula.comで しょうごとに れんしゅう（Lサイズの練習問題つき）